

発達特性（発達の特徴、脳タイプ）

- 「正常か異常か」ではなくて、どんな考え方のクセや行動のクセがあるか、どんな得手・不得手があるか
- 自分の発達特性を知ることは、「自分に合った工夫を発見し実行する技術」や「自分に合った方法や活動を選択する技術」などの向上に役立つ
- この練習は、独学よりも専門家とともに行えれば安心して確実（＝カウンセリング）
- 脳タイプは変わらなくても、技術が向上すれば不都合（トラブル）が減り、生活や気持ちが安定していく
- 発達特性は、医師でなくても、訓練を受けた専門家であれば判断していい

診断名（疾患名）

- 医療サービスを受ける資格があることの認定
 - ▲ 薬物療法、医療機関で行うカウンセリング、など
- 医療機関で医師が判断する（日本では、診断は医師が行うと法的に定められている）

障害名

- 福祉サービスを受ける資格があることの認定
 - ▲ 医療費の一部公費負担、障害者雇用枠での就労、など
- 一定期間の医療機関通院ののちに、その医学的状態が固定したものであることを医師が判断する

- 自閉スペクトラム（AS）は脳タイプ名（発達の多様性のひとつのパターン）
自閉スペクトラム症（ASD）は診断名（疾患名）と障害名のいずれの意味でも使用される
- ADHD は、脳タイプ名、診断名（疾患名）、障害名のいずれの意味でも使用される

子どもとおとなの心理学的医学教育研究所（iPEC）

精神科医師 吉田 友子（よしだ ゆうこ）